

- 1 主題名 優しい心を持って D(18) 自然愛護
- 2 教材名 「げんきに そだて、ミニトマト」(東京書籍「新しいどうとく2」)
- 3 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

内容項目D(18)は、「主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」を受けている。自然に親しむことや動植物を大切にしようとする態度は、自然の中で楽しく遊んだり親しんだりすること、動植物の飼育栽培などを行うことで培われるものである。動植物にも生命があり、優しい心で接することのよさを身近に捉えさせ、さまざまな生活の場面でも考えさせたい。

(2) 児童の実態について

実態調査

(調査日 令和4年5月23日 調査人数27人)

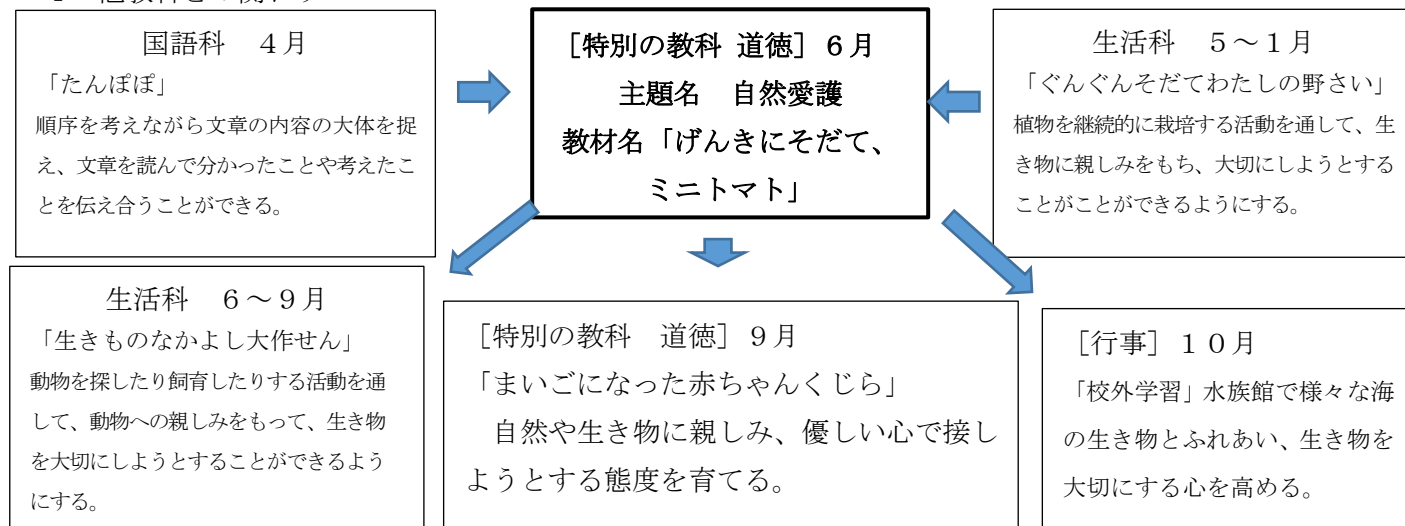
質問事項	
1 今までどんな植物や生き物を育ててきましたか。 (複数回答)	生き物20名 ・ハムスター、オオクワガタ、テントウムシ、金魚、ねこ、ゾウムシ、ザリガニ、メダカ・・・など。 植物7名 ・ミニトマト、ししとう、チューリップ・・・など。
2 忘れずに世話をつづけることはできましたか。	はい 25人 いいえ 2人
3 育ててみてどのようなことを思いましたか。 (複数回答)	・大きく育ってうれしかった。・・・(8人) ・動かなくなってしんでしまった。・・・(6人) ・さなぎから成虫になってうれしかった。・・・(3人) ・ごはんを食べてくれてうれしかった。・・・(3人) ・芽が出てうれしかった。・・・(2人)

本学級の児童は、動植物を育てた経験をもつ児童が多い。生活科の「ぐんぐんそだてわたしの野さい」では、育てたい野菜を選び、栽培活動を行っている。毎日かかさずに水やりを行い、観察をしている。その時には、先生「花が咲いたよ。」「実がなったよ。」と素直に成長を喜んでいる様子が見ええる。また、休み時間には、助川小学校の森やビオトープで生き物を探したり、つかまえて遊ぶなどしている。しかし、児童によっては、花に水やりを忘れたり、生き物の世話をすることを忘れたり、ビオトープの生き物を乱暴に扱ったりする児童も見受けられる。そこで、この授業を通して、動物の世話や飼育、植物の栽培や観察を根気よく丁寧に行うよさについて気づかせたい。また、より動植物を大切にし、触れあっていこうとする気持ちを育みたい。

(3) 教材について

本教材は、わたしがミニトマトの苗を一生懸命に世話をし、収穫して食べるという話である。お母さんに「なんだかあなたとにているわね。」と言われたことから、植物も自分と同じように成長していることに気付かせたい。また、世話をし大きく美しい実をつけたミニトマトに詰まっている主人公の気持ちを想像させ、命の大切さについて深く考えさせたい。そして、ミニトマトを食べるときの、「いただきます。」に込められた自然を大切にしようとする思いについて考え、ねらいに迫ることができるようにしたい。

4 他教科との関わり



身近な自然に親しみ、動植物に優しい心を持って接しようとする態度を育てる。

(2) 準備・資料

・教科書、ポートフォリオノート、場面絵、ミニトマト、自然や動物の写真（説話用）

(3) 展 開

	学習内容・活動	予想される児童の反応	指導上の留意点 ◎評価【方法】 ○支援を要する児童への手立て
導 入	1 生き物や植物の世話をした経験を思い出す。	・テントウムシ、カナチョロ ・チューリップ、トマト	・これまでに世話をしたことのある動植物について触れ、学習への意欲を高める。
展 開	2 教材を読んで考え、伝え合う。		・教材を場面ごとに区切り、中心発問へとつながるようにする。
	生きものやしょくぶつをそだてるために 大切なことについて考えよう。 ・登場人物の心情について考える ○「なんだかにているわね。」と言われたとき、わたしはどんな気持ちだったでしょう。 ◎「わたしの気持ち」とは、どのような気持ちなのでしょう。 ○「わたし」はミニトマトに、何とはなしかけたでしょう。	・ミニトマトも私と同じように元気なんだね。 ・早く大きくなってほしい。 ・今までより、もっとがんばって世話をしよう。 ・元気にそだってくれて、ありがとう。 ・大きくなってくれたね。 ・とてもおいしそうだね。 ・大きな実をつけてくれたね。 ・とてもおいしそうだね。	・ミニトマトもわたしも成長していることに気付かせる。 ・大きな実が成るまで育てた「わたし」の満足感に気づくようにする。 ・実際に収穫したミニトマトを用いて役割演技をさせ、多様な表現を引き出す。 ・児童の意見を肯定しながら、ねらいに迫る表現をしたら称賛する。
終 末	3 自分の生活を振り返る。 ○生きものやしょくぶつのせわをするとき、どんなことが大切なんだろう。 ○これからどんなことに気を付けて、せわをしたいですか。 4 教師の説話を聞く。 具体例を挙げ、教師が動植物に優しい心を持って接していることを話す。 5 本時の学習を振り返る。 ふり返りをノートに書く。	・やさしい気持ちで接する。 ・早く大きくなってと思って育てる。 ・元気になってねと話しかけながら、育てる。 ・早く大きくなってほしいと思いながら育てたい。 ・おいしく育ててねと思いながら、お世話をする。 ・「しっかり食べて」と思って、えさをあげたい。 ・長生きしてねと思いながら、世話をしたい。 ・好きだよと思いながら、接したい。 ・みんなを幸せにしてね、うれしくさせてね。と思いながら接したい。	・ポートフォリオ・ノートに自分の考えを書かせる。 ○なかなか書けない児童へは、野菜の苗を育てているときに、どんなことを大切にしているかを思い出せるように助言する。 [目標を達成した児童の姿] ◎動植物に優しい心を持って接しようと考えている。 【ノート、発言】 ・動植物に優しい心を持って接していこうという意欲を高める。 ・発表ができた、考えが書けた等を項目ごとに自己評価するようにする。